

産業建設常任委員会

日 時 令和 6 年 7 月 1 6 日（火）午前 1 0 時 0 0 分～
場 所 全員協議会室

1 開議

2 行政視察の総括

3 わがまちトーク応援議員の選出について

4 行政報告

【まちづくり推進部】

（１）全国都市緑化フェア in 京都丹波に係る基本計画策定等について

【産業観光部】

（１）森の京都DMOの活動報告について

（２）保津川舟運事業等安全対策協議会について

5 その他

産業建設常任委員会 資料

7月16日開催

まちづくり推進部

開催テーマについて

全国都市緑化フェア in 京都丹波（以下「フェア」という。）の開催目的や意義などを踏まえ、フェアで取り組み発信することなどを端的に表現した開催テーマを、2市1町の首長及び京都府南丹広域振興局長で組織する全国都市緑化フェア in 京都丹波推進協議会で設定し、令和8年秋のフェア開催を広く発信する。

開催の目的

日本の原風景ともいえる農村・里山等緑豊かな自然が広がる「京都丹波」において、恵まれた環境と文化的価値、その魅力を地域に暮らす人々と訪れる人々が共に享受し、新たな地域振興のポテンシャルを生む機会をつくるとともに、都市と農村の交流を促進し「こころ豊かなライフスタイル」による新たな時代の幸福社会の実現に寄与することを目的とします。

開催の意義

「環境」を尊び	京都丹波の財産といえる自然等の資源を活かす
「食農」を興し	「食農」を基幹とした地域経済の活性化
「芸術」を魅せる	文化・芸術を通じた地域の魅力発見と振興

・他フェアの例

全国統一テーマ	『緑ゆたかなまちづくり』 ～窓辺に花を・くらしに緑を・街に緑を・あしたの緑をいまつくろう～
仙台フェア	杜の都から始まる未来、みどりを舞台に人が輝く
川崎フェア	みどりで、つなげる。みんなが、つながる。
岐阜フェア	「清流の国ぎふ」から広げる 自然と共生した暮らし

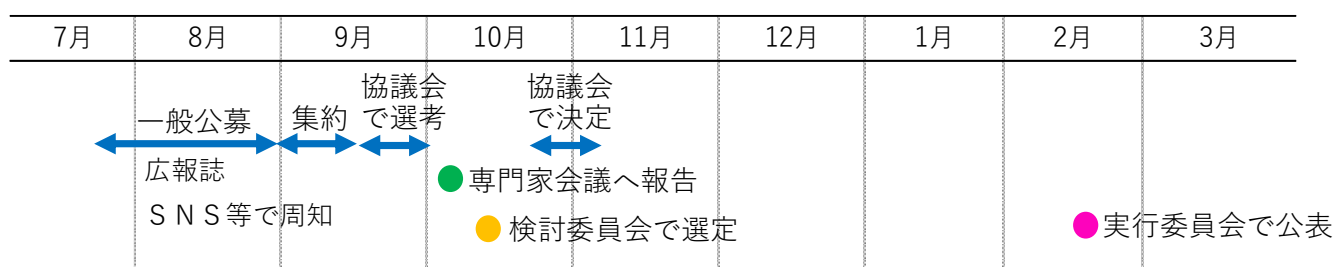
愛称の設定について

全国都市緑化フェア in 京都丹波の開催目的や意義などが誰にでも分かりやすく伝わる愛称を、公募により設定する。

・設定方法等

一般公募により、令和8年秋にフェアが京都丹波で開催することを全国にPRするとともに、年齢を問わず応募いただくことで開催機運の醸成を図る。

・スケジュール（案）



・選定方法等

応募作品を、全国都市緑化フェア in 京都丹波推進協議会（以下「協議会」という。）において、フェアの目的等が分かりやすく伝わる作品を20点程度選考し、全国都市緑化フェア in 京都丹波基本計画検討委員会（以下「検討委員会」という。）の学識経験者で構成する専門家会議へ報告した後、検討委員会で最優秀作品1点、優秀作品2点を選定し、協議会で決定する。

決定作品は、今年度末までに設立予定の全国都市緑化フェア in 京都丹波実行委員会（以下「実行委員会」という。）で公表する。

・表彰

最優秀賞 1点 賞状と1万円相当の副賞(2市1町の特産品から受賞者が選択)
優秀賞 2点 賞状と5千円相当の副賞(2市1町の特産品から受賞者が選択)

・他フェアの例

仙台フェア	未来の杜せんだい 2023 ～Feel green!～
川崎フェア	Green For All KAWASAKI 2024
岐阜フェア	ぎふ グリーン・ライフ フェスティバル 2025

シンボルマークの設定について

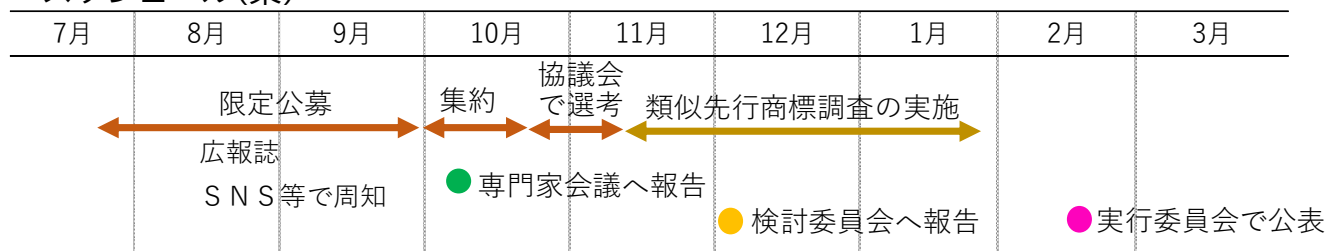
開催の目的、意義等を踏まえ、京都丹波フェアを視覚的に認識し、地域の魅力が伝わるマークを設定する。

・設定方法

2市1町に在住、在勤、在学、出身の人限定して公募する。

京都丹波地域にゆかりのある人限定して公募することで、地元でがんばる人の作品をフェアを通じて全国に発信し、採用者の今後の活動を後押しする。

・スケジュール(案)



・選考方法等

応募数が多い場合は、協議会事務局において専門家会議の中で芸術を専門とする方からの意見を伺う中で、選考対象を20作品程に絞り、協議会で最優秀作品1点、優秀作品2点を決定する。

決定作品は、専門家会議と検討委員会へ報告の後、今年度末までに設立予定の実行委員会で公表する。

最優秀作品が、商標権を侵害していないことを確認して商標登録を行う。

- ・表彰
 - 最優秀賞 1点 賞状と副賞5万円
 - 優秀賞 2点 賞状と副賞2万5千円

・他フェアの例

仙台フェア	
川崎フェア	
岐阜フェア	

イメージキャラクターの設定について

2市1町には、幅広い世代に親しまれ住民にも人気があるキャラクター、明智かめまる、さくらちゃん、味夢くんが活躍していることから、これらのキャラクターを緑化フェアバージョンにアレンジしてイメージキャラクターとする。

既存のキャラクターが仲良くPR活動を行うことで、2市1町が一緒にフェアを開催していることを、住民等に周知していく。

・スケジュール(案)

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
← アレンジを依頼 →			協議会で決定					
				● 専門家会議へ報告				
					● 検討委員会へ報告			
							● 実行委員会で公表	

・アレンジ方法

2市1町のキャラクターをデザインされた方にアレンジを依頼し、協議会で決定する。

決定したイメージキャラクターは、専門家会議と検討委員会へ報告の後、今年度末までに設立予定の実行委員会で公表する。

・2市1町キャラクターアレンジの例

熊本フェア応援キャラクター



・他フェアの例

仙台フェア	
川崎フェア	設定なし
岐阜フェア	

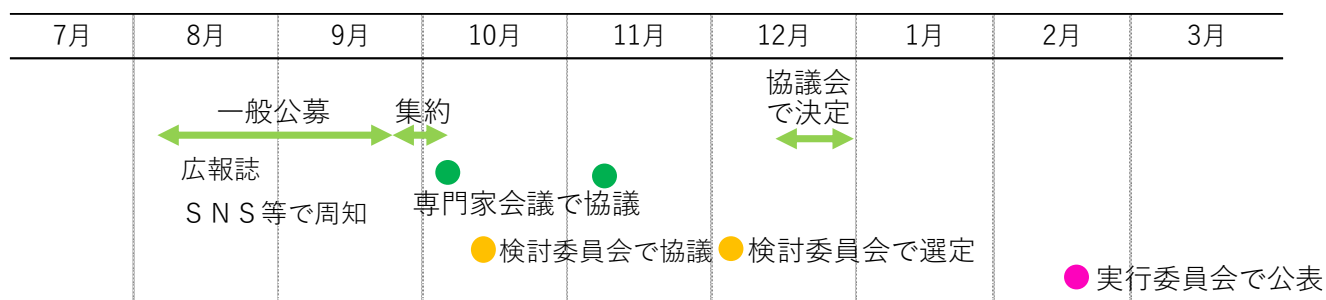
フェアスポットの選定について

京都丹波フェアでは、5箇所のフェア拠点のほか、地域の魅力を堪能できるエリアや場所、祭事や催しなどを「フェアスポット」と位置づけ、周遊、観光いただく拠点として、また、地域を象徴する場等として、広く発信していくこととしています。

フェアスポットは皆さんから公募して、ここにしかない景観や食、文化や芸術、歴史や伝統など、京都丹波に住む人々が守り受け継いできた地域の宝に光を当てて国内外に発信するとともに、ここに暮らす人が地域の魅力を再認識することで、景観や文化の保全活動等への参加を促進し、地域活性化につなげていきたいと考えています。

なお、フェアスポットについては、子育てや環境等、各自治体が重点的に進める施策や、エリア全体のバランスなども考慮しながら検討委員会で選定し、協議会で決定することとしています。

・スケジュール（案）



【フェア拠点】

- ・ 京都・亀岡保津川公園及び周辺
- ・ 亀岡運動公園及び周辺
- ・ 園部公園及び周辺
- ・ わち山野草の森及び周辺
- ・ 京都府立丹波自然公園及び周辺

第43回全国都市緑化フェアin京都丹波 基本構想

令和 6 （2024） 年 1 月

全国都市緑化フェアin 京都丹波推進協議会

1 開催の趣旨

いま、現代社会における急速な都市化の進展が社会構造や生活様式の変化をもたらし、それに伴い人間関係の希薄化、地域コミュニティの脆弱化が進んでいます。このような変化の中で人々は、物質的な豊かさより精神的な豊かさを重視するようになっており、より心穏やかな生活を求めて地方に移住する人も増えています。

我々の住む京都丹波地域は、緑や風景に恵まれ、また、日本の原風景ともいえる素晴らしい景観があります。そして、この豊かな自然の恩恵を受けた食も豊富です。この地域で暮らすことは、心豊かな生活を送り、新たな時代の幸福社会の実現につながるものと考えます。

一方、全国各地で地方創生に向けた取り組みが進められてはいるものの、依然として地方は少子高齢化や人口減少といった問題を抱えています。京都丹波地域においても、少子高齢化や人口減少に伴い、地域社会の担い手不足や経済活動・社会活動の持続性の低下といった課題に直面しています。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の急拡大を機に、地方で暮らしてもテレワークで都会と同じ仕事ができるとの認識が浸透したこともあり、地方移住の動きが加速しています。京都丹波地域は、京都市、大阪市、神戸市などの大都市近郊にあることから、移住者の増加が期待されるところです。

このような社会背景を踏まえ、人と人とのつながり、賑わいや温もりのある地域社会の再生に向け、また、京都丹波地域の新たなステージの幕開けとして、亀岡市・南丹市・京丹波町の2市1町の自然環境を活かし、山から里・まち・公園へとつながる森林や草木、花と緑を“まるごと”楽しみ、新たな価値観を共有できる「第43回全国都市緑化フェアin京都丹波」（以下、京都丹波フェア）を2市1町と京都府が連携・協力して開催します。

また、緑が有する多様な機能を活用するグリーンインフラは、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくり、そしてSDGsの達成にも期待され、防災・減災のほか地域振興や地域環境も含めた幅広い分野に貢献することから、京都丹波フェアは、豊かな緑と風景や景観の持つ価値を再認識するとともに、この地域で暮らす喜びや誇り、郷土愛を育んでいくことが、緑を守り、地域の未来を切り拓いていくということの共通認識を持ち、その機運を醸成し、継承し、次世代につなげていくこととします。

さらに、訪れた方には、京都丹波地域の豊富な味覚を堪能していただくことと合わせて、地域の祭事等にも触れる機会を設け、歴史や文化、人々の営みなど、この地域の魅力をまるごと満喫していただくことにより、賑わいの創出や地域の活性化、将来の移住・定住にもつなげていくとともに、2025年は、亀岡市の市制施行70周年、京丹波町の町制施行から20周年、2026年は、南丹市の市制施行20周年となることから、京都丹波地域の豊かな緑と風景、景観、歴史や文化、食など、「京都丹波」を広く全国に発信できる機会として、地域全体を盛り上げていきます。

2 開催の目的

日本の原風景ともいえる農村・里山等緑豊かな自然が広がる「京都丹波」において、恵まれた環境と文化的価値、その魅力を地域に暮らす人々と訪れる人々が共に享受し、新たな地域振興のポテンシャルを生む機会をつくるとともに、都市と農村の交流を促進し「こころ豊かなライフスタイル」による新たな時代の幸福社会の実現に寄与することを目的とします。

3 開催の意義

「環境」

を尊び

京都丹波の財産といえる自然等の資源を活かす

- ✓ 地域生態系や農地・里山の風景を守り、活かす
- ✓ 自然を敬い、自然と共にある暮らしの提案
- ✓ グリーン・ツーリズム、エコツーリズム、ガーデンツーリズム等による花と緑のまちづくり



「食農」

を興し

「食農」を基幹とした地域経済の活性化

- ✓ 都市と農村の連携の促進、交流人口の増加
- ✓ 産官学民の協働による共感・共創のまちづくり
- ✓ 地場農産品のブランド化、付加価値の向上

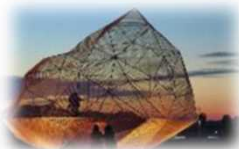


「芸術」

を魅せる

文化・芸術を通じた地域の魅力発見と振興

- ✓ 創造的で文化的な表現活動を通じたまちづくり
- ✓ 若い世代が憧れ、魅力を感じるまちづくり
- ✓ 地場産業・産品を育む諸活動の支援



4 開催の基本方針

(1) 京都丹波の地域色豊かな環境や風景、文化を体感・体験することにより、もう一つの京都の魅力を堪能するフェア

- ✓ フェアの開催に合わせて京都丹波を巡りながら、地域の歴史、伝統、食、産業・技術等の資源を体感・体験することにより、これまでの京都観光とは違う日本の原風景等京都丹波の魅力を国内外の人々に向け発信する。

(2) 「食農」を基幹とした都市と京都丹波地域の交流による新たなライフスタイルを提案するフェア

- ✓ コロナ禍を経験し、効率性と便利さを追求した都市生活を離れ、「心の豊かさやすらぎ、安心安全な暮らし」を基調としたゆとりある地域での生き方、過ごし方を見直すことで、新たなライフスタイルを発見する好機とする。

(3) 子どもたちの豊かな感性を育み、“ふるさと”を愛する地域の担い手を育てつないでいくフェア

- ✓ 未来を担う子どもたちの心身の健やかな成長の実践の場を提供するとともに、文化・芸術による地域の魅力の発見や情報を発信することで、豊かな暮らしを定着させる機会とする。

5 名称等

5-1 名 称

第43回全国都市緑化フェアin京都丹波

5-2 開催テーマ

京都丹波フェアの目的・意義・基本方針を踏まえて基本計画時に設定します。

<全国都市緑化フェアの統一開催テーマ>

『緑ゆたかなまちづくり』

～窓辺に花を・くらしに緑を・街に緑を・あしたの緑をいまつくろう～



図 開催地域位置図

5-3 愛 称

京都丹波フェアの目的・意義・基本方針・コンセプトが誰にでもわかりやすく伝わるような愛称を、基本計画時に設定します。

5-4 シンボルマーク

基本計画以降に設定します。

5-5 提 唱

国土交通省

5-6 主 催

京都府

亀岡市、南丹市、京丹波町

公益財団法人都市緑化機構

5-7 開催時期

開催時期は2026(令和8)年の9月中旬～11月上旬をコア期間とします。

コア期間以外でも、京都丹波地域の様々な祭事・催しと積極的に連携し、地域の魅力を伝えていきます。

具体的な時期は基本計画以降に設定します。

5-8 イメージキャラクター

幅広い世代に親しまれるキャラクターを基本計画以降に設定します。

6 会場計画

6-1 フェア会場の基本的な考え方

- ・ 京都丹波地域には、豊かな自然と風景、それらと共にある営み、日本の原風景ともいえる景観、古くからの歴史や地域固有の文化など、多様な魅力をもつ資源や資産があります。
- ・ 京都丹波フェアでは、フェアの目的・意義・基本方針を踏まえ、京都丹波地域全体を一つの会場とします。そして、京都丹波地域の特徴や資源・資産の魅力を感じられるエリアや場所を地域の周遊、観光の拠点やスポットとして位置づけます。
- ・ これらの拠点やスポットは2市1町それぞれに展開し、それらをつなぐことで、地域ごとの魅力や取り組みを発信し、地域全体で来訪者を迎え、京都丹波地域を満喫していただき、心豊かな生活を考えるきっかけとなるような体感や体験ができるフェアとします。
- ・ 拠点やスポットでは、京都丹波フェアの計画・準備段階から、地域で活躍する人材や多様な主体が参加・交流することにより、多くの地域住民、来訪者が緑への関心や地域への愛着を持っていただけるフェアとします。
- ・ また、フェア開催に伴う様々な活動を通じて、地域住民や来訪者など多くの人が交流し、本フェアをきっかけに地域の魅力が向上、活性化し、さらには、地域振興や観光振興などにおいて新たなチャレンジや取り組みにつながるなど、今後の地域づくりに寄与するフェアとします。

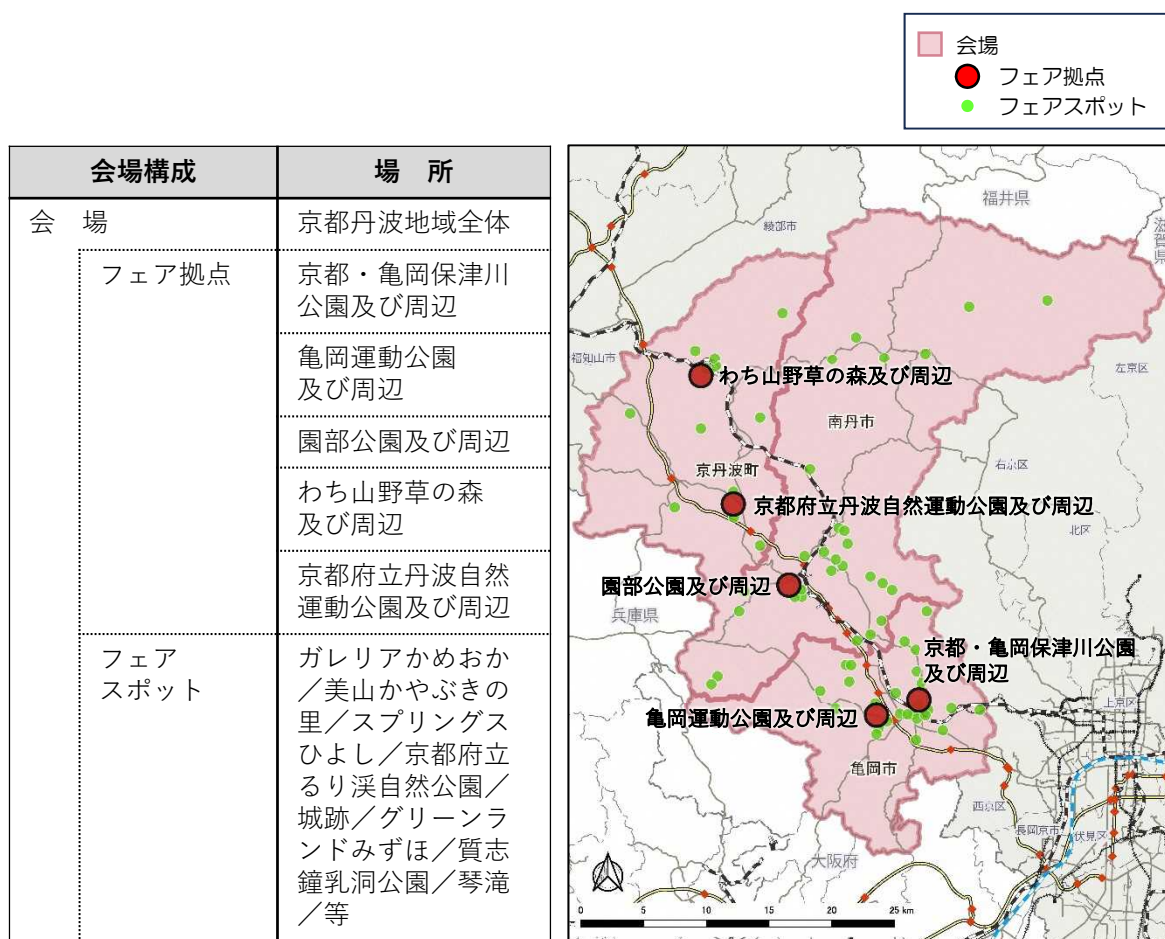


図 会場構成図

※フェアスポットは、上記を含め、地域の方々のご意見を聞きながら、地域の風景や景観ポイント（視点場）・名所・観光地・道の駅・オープンガーデン・商店街などを基本計画以降に設定します。

6-2 フェア拠点

1) フェア拠点の基本的な考え方

- 各拠点は、それぞれの立地や特徴を活かし、京都丹波フェアの目的・意義・基本方針が訴求する場とします。
- 既存の施設状況を踏まえた構成や展示手法を取り入れた場とします。
- 地域らしさを表現する多彩なコンテンツや、花や緑に関わる催しをはじめとした多様なイベントの展開により、京都丹波の多様な魅力を全国に発信する場とします。
- イベントならではの楽しさや、改めて地域の良さを感じられるようなコンテンツを展開し、地域住民と来場者の交流を図るとともに地域への理解を促し、地域を盛り上げていく場とします。
- 各拠点で展開する様々なコンテンツに、京都丹波地域の食や、地域を盛り上げていく文化・芸術の要素を取り入れる場とします。
- 地域住民に拠点づくりの一端を担って頂き、地域を愛する心を育み、地域づくり活動に関わる機会を創出する場とします。
- 地域を周遊、観光する拠点としての機能を持たせ、京都丹波地域のブランド価値を向上し、地域経済の活性化、地域振興、観光振興の一翼を担う場とします。
- 企業、団体、地域住民等の出展・催事参加者にとっては、発表の舞台であり顕彰の場とします。自治体参加者にとっては、観光振興につながる場とします。
- 各拠点で展開する様々なコンテンツを通じて、グリーンインフラ活用の取り組みを推進するとともに関連する業界の振興を図ります。

種別	名称・場所	イメージ
フェア拠点	京都・亀岡保津川公園 及び周辺	京都丹波地域の豊かな自然と、その上に成り立つ営みである農の体感・体験を通じて、地域や農、環境への理解を促し行動変容につながる拠点
	亀岡運動公園及び周辺	隣接するコスモス園と連携したスケール感のある華やかな修景の中で、多様な主体による屋外展示やコンテンツを楽しむとともに学びを深め、地域の魅力を発見・再認識して地域づくりへとつなげる拠点
	園部公園及び周辺	歴史を感じさせる落ち着いた修景の中で、多様な主体による屋内展示やコンテンツを楽しむとともに学びを深め、京都丹波地域への愛着を深める拠点
	わち山野草の森及び周辺	京都丹波地域の豊かな緑・多彩な植物との触れ合いを通じて植物の豊かさ、大切さを学ぶとともに京都丹波の魅力に触れる拠点
	京都府立丹波自然運動公園 及び周辺	地域の食や、花や緑の普及啓発をはじめとした地域の魅力を伝える多様なイベントを通じて、人が集まり、交流し、地域の魅力を満喫する拠点

2) フェア拠点のイメージ

京都・亀岡保津川公園及び周辺

京都丹波地域の豊かな自然と、その上に成り立つ営みである農の体感・体験を通じて、地域や農、環境への理解を促し行動変容につながる拠点

○京都・亀岡保津川公園の概要

13.9ha（未整備）。フェア開催に向け都市公園整備実施予定。

背景には里山が連なり、眼前には桂川、水田、アユモドキの生息場が広がり、京都丹波地域ならではの里山と盆地の特徴を感じられる場所。



主な展開イメージ



- 日本の原風景の美しさを伝え、京都丹波の魅力に触れられる展示を展開



- 京都丹波地域の豊かな自然の上に成り立つ営みである農と、心を豊かにする文化・芸術とが融合した魅力的な展示を展開



- 農の活動と食の関係を再認識し、その価値を再発見するための体験プログラム等のコンテンツを展開

亀岡運動公園及び周辺

隣接するコスモス園と連携したスケール感のある華やかな修景の中で、多様な主体による屋外展示やコンテンツを楽しむとともに学びを深め、地域の魅力を発見・再認識して地域づくりへとつなげる拠点

○亀岡運動公園の概要

亀岡市管理の都市基幹公園（運動公園）。供用15.9ha。指定管理導入。

園内にはかめおか国際交流記念公園があり、多くの市民が利用する場所。隣接するコスモス園は秋の風物詩。

○亀岡運動公園の施設

体育館、競技場、野球場、プール、ジャンヂーランド（野外ステージ）、クニッテルウッドランド、スタイルウォーターランド、多目的広場、芝生広場、等



主な展開イメージ



- 地域の造園技術や、生活に緑や農を取り入れるための多彩な表現や提案に触れ、学ぶことができる出展を展開



- 遊びながら、楽しく地域の特産を理解できるコンテンツの展開



- 隣接するコスモス園とも連携し、スケール感のあるカラフルな秋の花が楽しめる空間の演出

園部公園及び周辺

歴史を感じさせる落ち着いた修景の中で、多様な主体による屋内展示やコンテンツを楽しむとともに学びを深め、京都丹波地域への愛着を深める拠点

○園部公園の概要

南丹市管理の都市基幹公園（総合公園）。供用19.0ha。昭和31年供用開始。

南丹市の中心市街地に隣接し、わが町を見渡せる小麦山がある都市公園。地域の歴史を感じさせる国際交流会館、文化博物館が隣接

○園部公園の施設

体育館、競技場、野球場、多目的運動場、芝生広場、イベント広場、コミュニティ広場、小麦山、散策路、女性の館、等



主な展開イメージ



- 高い園芸技術や、生活に緑を取り入れるための提案に触れ、学ぶことができる出展を展開



- 京都丹波フェアの目的・意義・基本方針に沿ったテーマのシンポジウム等の開催



- 京都丹波地域の眺望を楽しむ場の創出

わち山野草の森及び周辺

京都丹波地域の豊かな緑・多彩な植物との触れ合いを通じて植物の豊かさ、大切さを学ぶとともに京都丹波の魅力に触れる拠点

○わち山野草の森の概要

京丹波町保有施設。供用12ha。一般財団法人運営。

里山のふもと、由良川沿いに広がる癒しの自然活用型公園で、約900種の山野草や花木の、素朴で美しい姿を見られる場所。

○わち山野草の森の施設

展示園（樹木(約180種)、山野草(約720種)）、温室、生産ハウス、売店、展示研修室、イベント広場、遊歩道、等



主な展開イメージ



- 京都丹波地域の豊かな植物と、心を豊かにする文化・芸術とが融合した展示を展開



- 山野草の面白さや山野草について学び、理解し、考えてもらうためのコンテンツを展開



- 地域の環境に触れ、地域を理解し、生活に取り入れる一助となる機会を提供

京都府立丹波自然運動公園及び周辺

地域の食や、花や緑の普及啓発をはじめとした地域の魅力を伝える多様なイベントを通じて、人が集まり、交流し、地域の魅力を満喫する拠点

○京都府立丹波自然運動公園の概要

京都府立の大規模公園（広域公園）。指定管理導入。供用53.2ha。昭和45年供用開始。

高原ならではの起伏のある地形と豊かな緑に彩られた都市公園。京都府中部地域の中核をなす公園施設として多くの府民が利用。

○京都府立丹波自然運動公園の施設

体育館、競技場、軟式野球場、球技場、プール、ジャイアントスライダー、こどもの広場、わくわくアスレチックパーク、ピクニックの丘、丹波天文館、菖蒲池、花岡山、クロスカントリーコース、散策道、トレーニングセンター、等



主な展開イメージ



- 地域の特産品を使ったメニュー、ご当地グルメなど、地域の食を満喫できる場の提供



- 花や緑の普及啓発をはじめとした地域の魅力を伝える多様なイベントを展開



- 広く来場者を集めるイベントや、地域住民と来場者の交流を促進するイベント、若者を集めるイベントなど多彩なイベントを展開

6-3 フェアスポット

1) フェアスポットの基本的な考え方

- 京都丹波フェアでは、京都丹波地域の多様な魅力を堪能できるエリアや場所、道、視点場、祭事・催し、活動などを「フェアスポット」として位置づけます。
- 「フェアスポット」は、「自然・風景・景観」「食・くらし」「文化・芸術」「歴史・伝統」「活動・スポーツ・レクリエーション」「休養」といったテーマやキーワード（視点場）から選定し、展開します。
- 「フェアスポット」の選定にあたっては、既に認知されているエリアや場所だけでなく、地域住民への公募等により、地域に住まう人だから知っている新たなエリアや場所、道、視点場等を発掘します。
- 来訪者への玄関口となる交通拠点なども「フェアスポット」として位置づけます。
- また、「フェアスポット」に携わる多様な主体との連携・協働により、地域全体で本フェアを盛り上げ、京都丹波の魅力を広く全国に発信します。

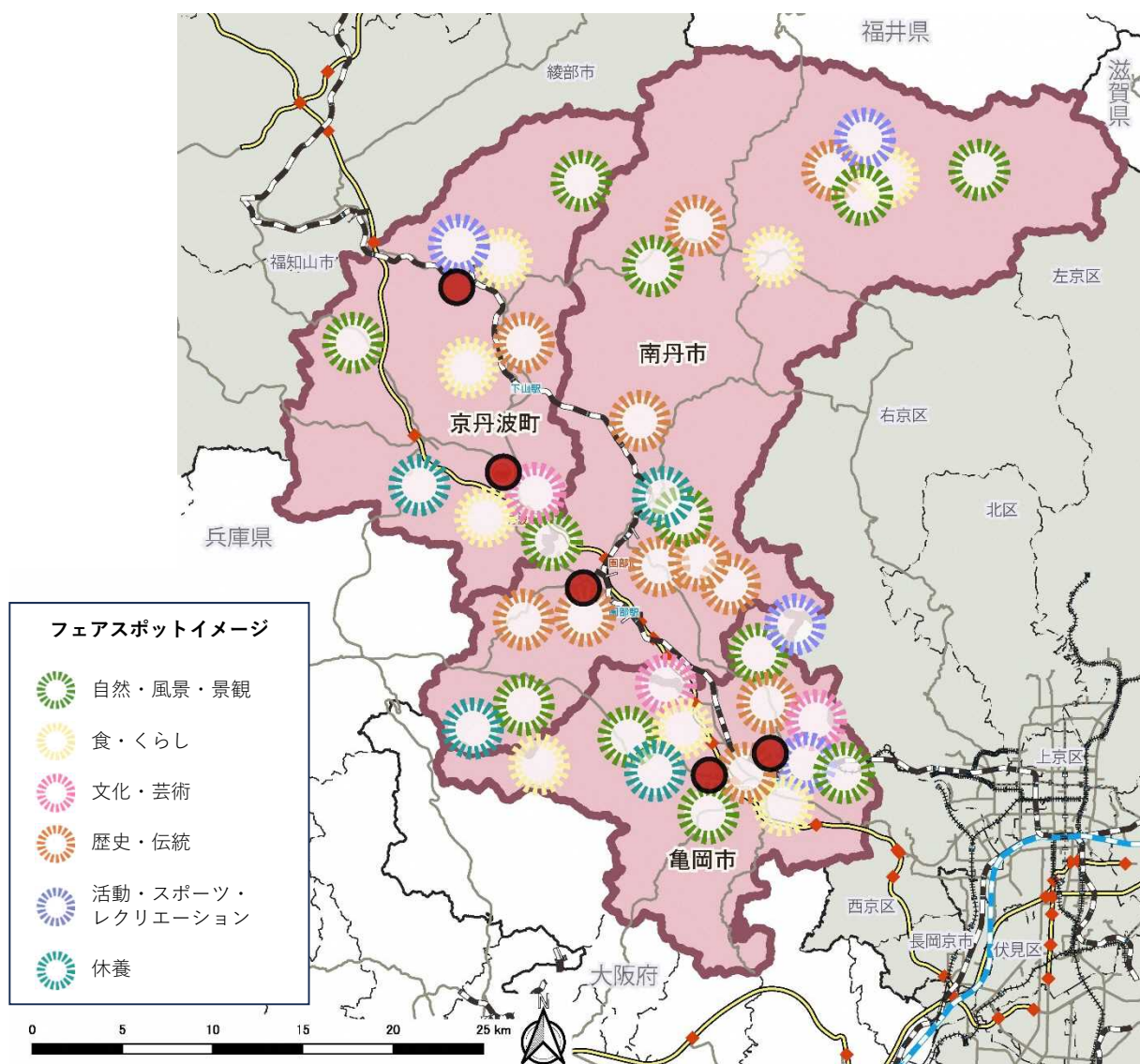


図 フェアスポットの展開イメージ

2) フェアスポット選定の考え方とキーワード（視点場）

テーマ	選定の考え方	キーワード（視点場）
自然・風景・景観	- 京都丹波地域を象徴するような風景・景観の場所 - 自然美を感じられる場所 - 自然を楽しむ場所	原風景（里山）、農地、生態系、緑スポット、展望台、道、溪谷、溪流、川、ダム、鍾乳洞、霧、森林、保津川下り、トロッコ列車、紅葉、桜、公園、庭、花、等



テーマ	選定の考え方	キーワード（視点場）
食・暮らし	- 地域の食べ物 - 食べ物を楽しむ場所 - その他食べ物に関する場所やイベント - 地域の活動 - 地域の日常の暮らしの中で集う場所 - 地域の産業に関わるモノや場所	特産品、名物料理、伝統料理、地域グルメ、スイーツ、道の駅、市、マルシェ、健康、まちづくり、環境保護・保全、子ども・若者の育成、食育、学校、公民館、商店街、オープンガーデン、林業、地場産業（食以外）、工場、交通拠点、等



テーマ	選定の考え方	キーワード（視点場）
文化・芸術	- 文化・芸術やアートに関するモノや場所 - 文化・芸術やアートに関するイベント	文化祭、芸術祭、アート、博物館、美術館、音楽、花火、アトリエ、等



テーマ	選定の考え方	キーワード（視点場）
歴史・伝統	- 地域の歴史を伝える場所 - 古くから続く地域の伝統行事や伝統工芸と関わりのあるモノや場所	寺社、城跡、伝統建造物、歴史的な街、祭り、伝統芸能、伝統工芸、工房、等



テーマ	選定の考え方	キーワード（視点場）
活動・スポーツ・レクリエーション	- 体を動かして体験する場所 - 京都丹波ならではの体験をする場所	体験施設、サイクリング、ツーリング、カヌー、ラフティング、サッカー、マラソン、釣り、トレッキング、ピクニック、キャンプ、気球、等



テーマ	選定の考え方	キーワード（視点場）
休養	日常から離れ、休める場所	温泉、宿泊所、等



7 事業計画

7-1 事業展開の基本的な考え方

- 京都丹波フェアの事業全体を通じて、積極的に環境に配慮した取り組みを行うことで、地域の環境の価値の再認識につなげます。また、かけがえのない地域の環境を守っていくことの大切さが共通認識となり、次世代に継承され、活動が継続していくことを目指します。
- 京都丹波フェア開催の効果を一過性で終わらせないことを念頭に、フェアで行う様々な取り組みがレガシーを創出し、フェア閉幕後の京都丹波地域の持続的な発展や活性化につながるような事業展開を目指します。

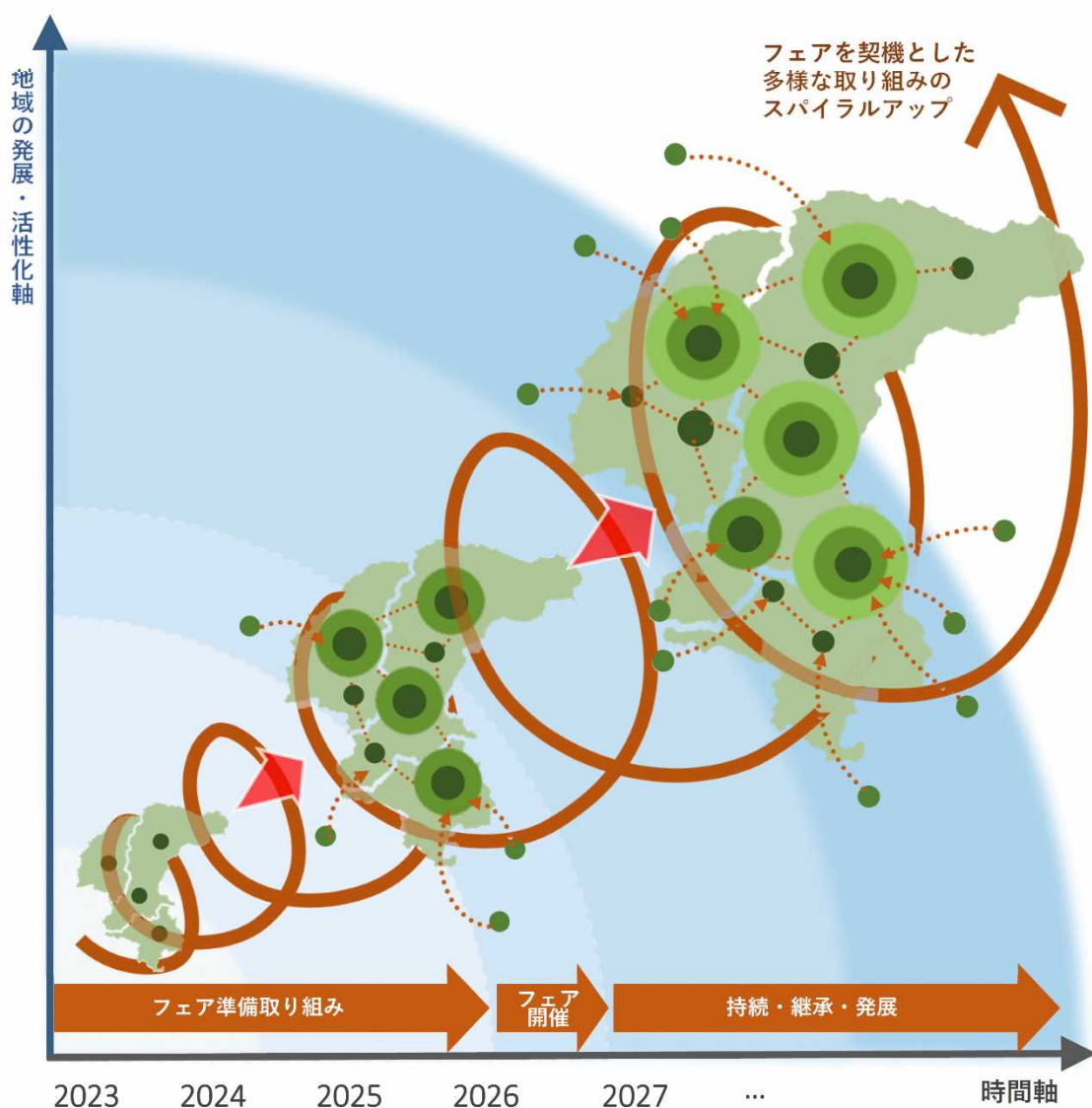


図 事業展開の効果のイメージ

7-2 観客誘致・広報宣伝計画

1) 観客誘致

- 様々なエリアやターゲット等に対し、本フェアの計画・準備段階から観客誘致方策を展開します。
- 京都丹波の地域資源、観光資源を発信する事業、主催自治体による各種キャンペーン事業と連携した誘客方策や交通機関を活用した誘客方策など、府内をはじめ、近畿圏、全国、海外の来訪者に向けた観客誘致を展開し、その検証を行います。

2) 広報宣伝

- 観客誘致方策と連動し、時期、集客エリア、ターゲットに対応した広報宣伝活動を展開します。
- ホームページやSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)などのデジタルコンテンツを有効に活用した広報宣伝を展開します。
- 開催までの準備情報の継続的な発信により、開幕への機運を高める広報活動を展開します。
- 多様な情報交流を促す情報インフラの整備等により、地域活性化につながる広報活動を目指します。

7-3 参加交流計画

- 本フェアの計画、準備の段階から地域の多様な主体と積極的に協力・連携し、開催機運を醸成するとともに、本フェアが一過性で終わることなく、地域の活性化や京都丹波地域の発展につながる事業展開を目指します。
- 本フェアが、様々な交流・協働の「場」となり、地域を活性化する新しいことへのチャレンジや今後の地域活動を支える担い手の育成につなげ、その検証を行います。

7-4 展示計画・出展コンテスト計画

- 京都丹波地域の自然、花・緑、歴史、文化・芸術、わが国のくらしや原風景の源である農など、地域資源を活用し体験・体感できる展示を展開します。
- 企業団体や学校、花・緑の愛好家やNPO、ボランティア団体の日頃の活動成果を発揮する出展、技術交流や情報交換、さらには他分野との交流を促し、本フェアを契機とした地域活性化に向けたネットワークづくりにつながる出展を展開します。
- 造園技術や花や緑の活動などを評価顕彰し、その技術や活動の情報発信と一層の地域貢献につながるコンテストを展開します。

● 展示・出展・コンテストの定義

展示：京都丹波フェアの目的・意義・基本方針を踏まえ、主催者が企画、デザイン、施工（制作）する展示物

出展：参加者が企画、デザイン、施工（制作）し、会場内に設置する作品。あるいは、主催者が京都丹波フェアの目的・意義・基本方針を踏まえて設定したテーマや作品形態に基づき、参加者が制作する作品

コンテスト：出展作品を対象とした専門家審査や来場者投票によるコンテスト

7-5 会場運営管理計画

- ・ 快適で安全な空間提供と来場者が必要とする情報をリアルタイムに案内できるサービスを構築します。
- ・ フェアの各事業で展開される様々な取り組みをサポートする会場運営を行います。
- ・ 地域住民、企業・団体、NPO等との協働による運営管理手法を積極的に導入します。
- ・ 多くの地域住民がホストとして本フェアを盛り上げ、キャストとして本フェアに参画・協働し、来場者を「おもてなし」する環境づくりを行います。
- ・ 本フェアの様々な場面で多くの地域住民がもつスキルを活かせる場づくりや様々な人に出会いコミュニティを広げる機会を創出します。

7-6 交通輸送計画

- ・ 京都丹波地域の魅力を伝えるための様々な交通手段の利用を前提に、京都丹波の多様な地域資源、観光資源を周遊し満喫できる事業展開を目指します。
- ・ 円滑な来場者の輸送と会場周辺的生活環境に配慮した交通輸送を行います。

7-7 行催事計画

- ・ フェア開催前から、本フェアの目的・意義・基本方針を踏まえ京都丹波の多彩な魅力を伝える戦略的な行催事を展開します。
- ・ 地域で活動する多様な主体との協力連携体制の構築を図り、花や緑をはじめとした京都丹波の魅力を発信し、京都丹波地域への関心が高まる行催事を展開します。
- ・ 子どもから大人まで幅広い来場者が京都丹波地域を知り、学び、楽しむことのできる行催事や京都丹波の自然環境、文化・芸術そして原風景をつくる農を体験、体感できる行催事を展開します。

7-8 営業参加計画

- ・ 飲食や物販も“京都丹波らしさ”を表現する一つとして、多様な主体との協力連携体制の構築を図り、積極的に展開します。
- ・ 特産品を使ったメニューやご当地グルメなど、子どもから大人まで幅広い層に受け入れられる飲食物販サービスを展開します。
- ・ 出店方法や出店期間など本フェアへの参加参画の手法を工夫し、本フェアに関わる多くの営業参加店舗の獲得と出店内容の充実を図ります。

7-9 協賛計画

- ・ 本フェアの各事業における参加協賛体制の構築と多彩な参加協賛の手法の設定によって、地域の多様な主体からの最大限の支援獲得を目指します。

8 事業推進計画

8-1 事業推進体制

1) 準備組織の環境整備

- 京都丹波らしいフェアの実現とフェアを契機とした緑化推進の発展、継続を目指し、京都丹波地域2市1町の横断的な組織として事業の実施、実行に向けた環境を整えます。

2) 基本計画検討委員会（仮称）の設置

- 基本計画策定時には、各事業の専門的な分野(参加協働、交通輸送、観客誘致、広報宣伝、会場計画等)に関することへの助言を得ることを目的とした検討委員会を設置します。
- 検討委員会は、ランドスケープや造園、環境、文化・芸術、観光等に精通する学識者、本フェアの事業内容を踏まえた専門的な知識、情報等を有する関係団体等で構成します。

3) 実行委員会の設置

- 基本計画の策定後、本フェアの円滑な事業推進・事業への協力連携等を目的に、実行委員会を設置します。
- 実行委員会は、主催者、行政、学識者、経済・緑化・環境・花き・農林・教育・文化・芸術・交通・福祉・観光等の関係団体等の委員により構成します。

4) 実行委員会事務局の設置

- 実行委員会のもと、各事業を推進・実行するための組織として実行委員会事務局を設置します。

8-2 事業スケジュール

項目	2023（令和5）年度	2024（令和6）年度	2025（令和7）年度	2026（令和8）年度
計画策定等	基本構想	基本計画	実施計画	開催準備
国との協議		● 大臣同意		
実行体制		● 実行委員会設立 設立総会	● 実行委員会 総会	● 実行委員会 総会

事業推進 ※可能なものから随時着手

全国都市緑化フェア

持続
継承
発展

8-3 事業費

- 事業内容を踏まえ、基本計画以降に設定します。

令和 6 年 7 月
産業建設常任委員会 資料

産業観光部

保津川舟運事業等安全対策協議会

【設立総会】 令和6年7月8日（月） 午後6時～午後8時 亀岡市役所市民ホール

【参画事業者】

アースグラフィティ、株式会社アオキカヌーワークス、株式会社 Zedd(アウトドアクラブ Nuts)、トムソーヤアドベンチャーズ、ナチュラルスイッチ、株式会社ビックスマイル、保津川遊船企業組合、株式会社ホツグリッターズ(きらきらラフティング)、亀岡市

【オブザーバー】

京都府南丹広域振興局、亀岡消防署

【事業計画】

水難救助訓練(年1回)、環境保全活動(年3回程度)、プロモーション活動

【認証制度について】

条例に基づき、ある一定の基準を充たす事業者を亀岡市長が認証することとしている。今後、認証基準を規定した規則を制定するにあたり、ご意見を頂戴した。

認証基準(案)

- 1 運航マニュアルを備えていること。
- 2 緊急対応マニュアルを備えていること。
- 3 有事の際、利用できる保険に加入していること。
- 4 コンプライアンス遵守が徹底されていること。
- 5 保津川での運航実績を有していること。



森の京都

報告事項 ア

2023年度 事業報告の概要 ～ 2023年4月～2024年3月 ～

一般社団法人森の京都地域振興社
(森の京都DMO)

DMOが関わる活動目標と2023年度実績

< 森の京都DMOの活動目標となるKPI >

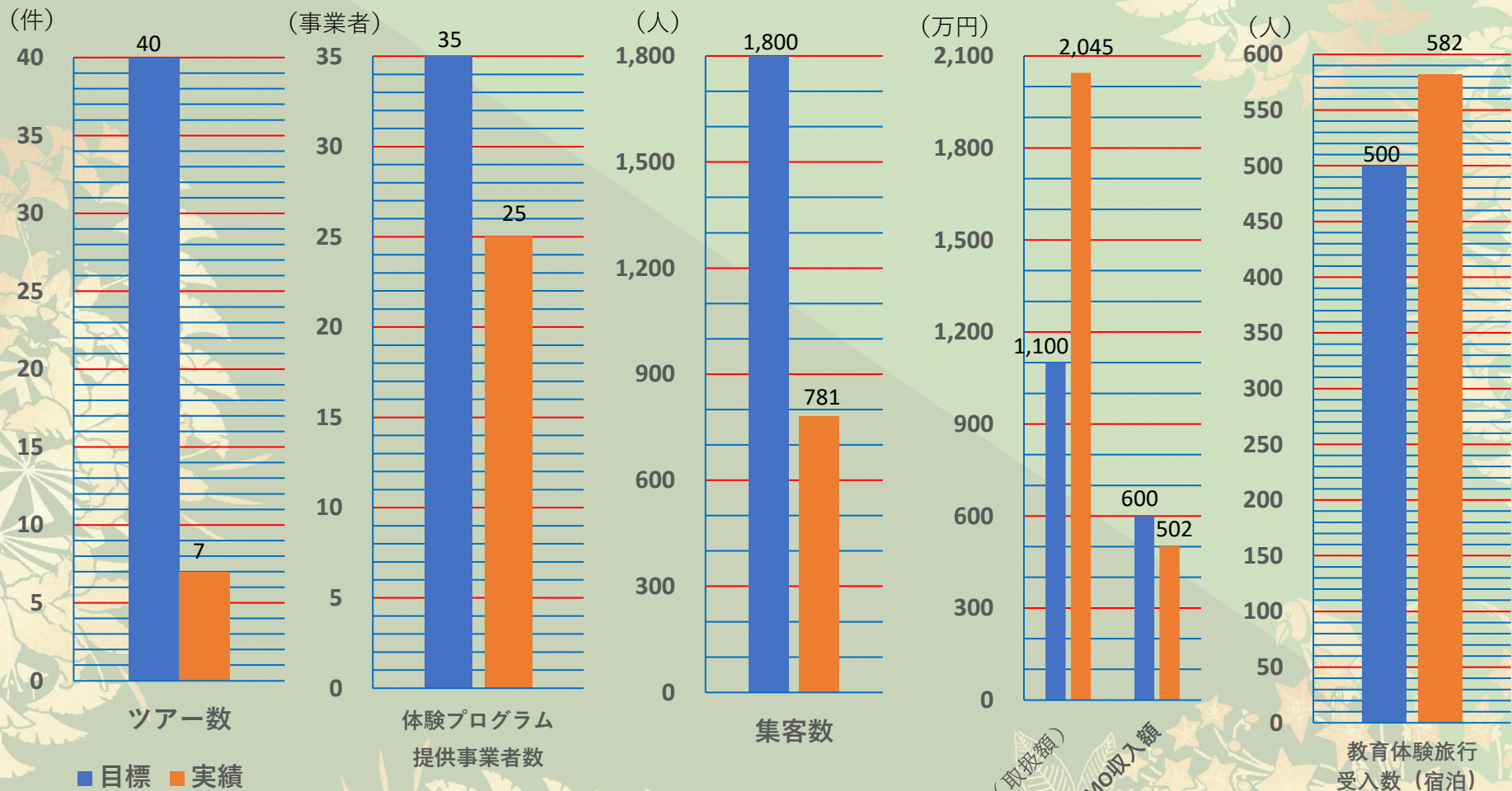
目標：中期経営戦略2025

年 度			2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
①ツアー商品・体験プログラム											
ツアー数（件）	目標	—	—	40	45	30	35	40	45	50	
	実績	6	26	37	43	29	12	7	—	—	
体験プログラム提供事業者数 （事業者）	目標	—	—	18	30	25	30	35	40	45	
	実績	4	9	15	22	20	20	25	—	—	
集客数（人）	目標	—	—	1,500	1,800	1,200	1,500	1,800	2100	2400	
	実績	409	985	375	228	279	387	781	—	—	
売上（取扱額）（万円）	目標	—	—	1,200	1,400	500	800	1,100	1300	1500	
	実績	220	803	538	348	576	851	2,045	—	—	
うちDMO収入額(万円)	目標	—	—	450	520	200	400	600	800	1000	
	実績	18	297	131	84	138	207	502	—	—	
教育体験旅行受入数 （宿泊延べ人）	目標	—	—	1,400	1,600	0	400	500	600	700	
	実績	962	1,120	1,683	0	0	73	582	—	—	
②物販(提供事業者数、販売額)											
提供事業者数（事業者）	目標	—	—	20	30	10	15	20	25	30	
	実績	13	7	8	8	27	26	26	—	—	
販売額（万円）	目標	60	38	50	80	120	140	160	200	240	
	実績	60	38	80	174	483	780	458	—	—	
③web											
アクセス数	目標	—	—	120,000	300,000	200,000	300,000	400,000	500000	600000	
	実績	40,026	60,635	71,187	122,947	274,386	390,254	392,913	—	—	
ページビュー数	目標	—	—	360,000	900,000	450,000	550,000	650,000	750000	850000	
	実績	169,252	185,270	231,897	390,519	524,182	685,958	634,499	—	—	
④情報発信可能顧客数											
情報発信可能顧客数（人）	目標	—	—	1,000	2,000	1,000	1,200	1,400	1600	1800	
	実績	—	—	596	981	8,097	11,625	14,049	—	—	

DMOが関わる活動目標と2023年度実績

＜森の京都DMOの活動目標となるKPI＞

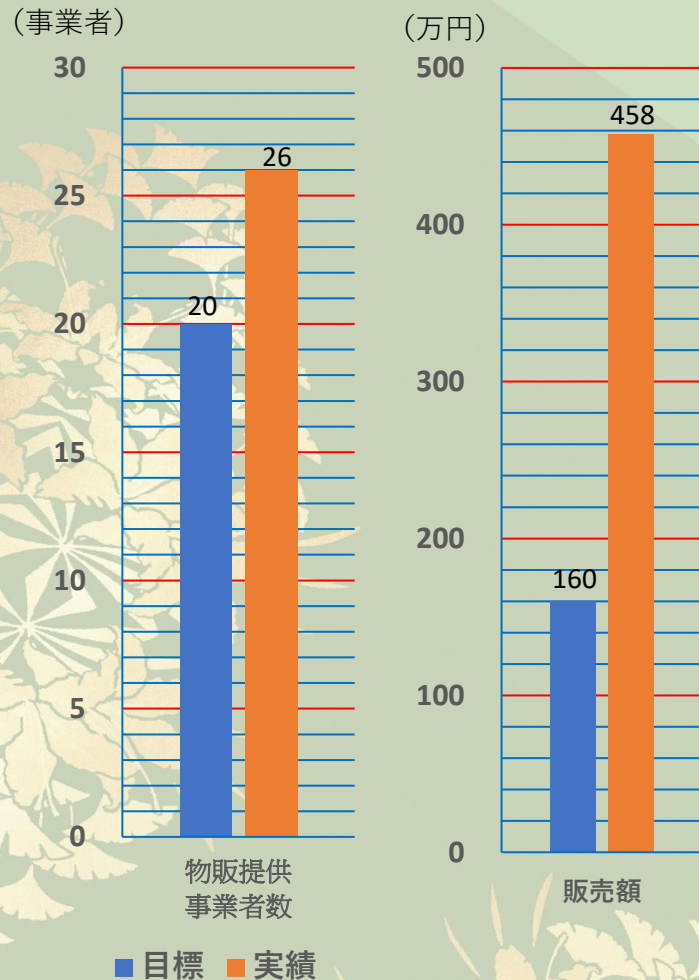
1 ツアー商品・体験プログラム



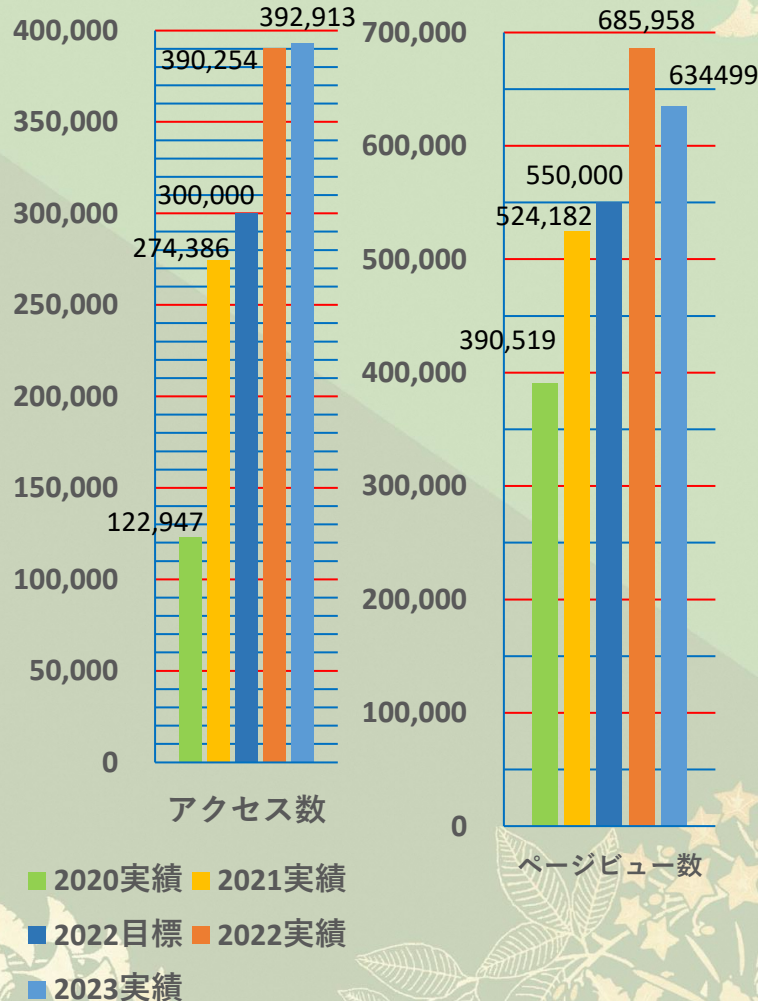
DMOが関わる活動目標と2023年度実績

＜森の京都DMOの活動目標となるKPI＞

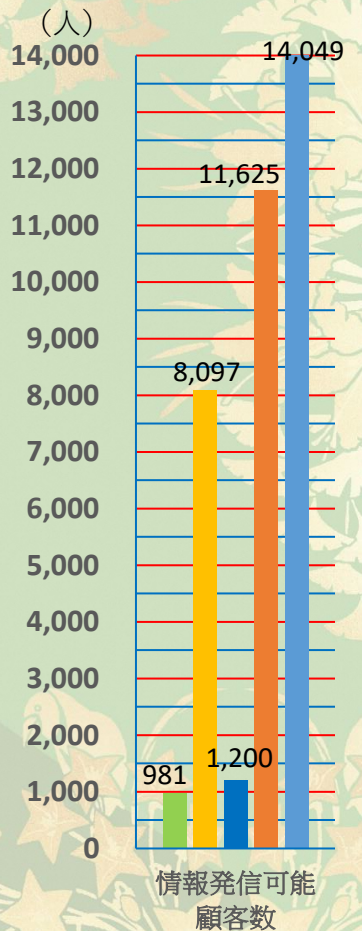
2 物販



3 web



4 情報発信可能顧客数



マーケティング調査等による顧客拡大（森の京都のファンづくり）

森の京都ファンクラブの拡大・利用促進

- 森の京都ファンクラブの登録者増のため、各種イベント等で登録キャンペーンを実施
 - 3/31時点で**3,063人**が登録（R4/3/31 427人）※メールレター会員数は**14,049人**
- ファンクラブ登録者への特典などに関わる協力事業者を開拓
 - 3/31時点で**55事業者**が登録（ファンクラブ創設時（R5.2）28事業者）



- ・サンガタイムズ（2023.10月号）で森の京都ファンクラブを紹介、登録キャンペーンを実施



- ・サンガスタジアムby KYOCERAでのイベント等で登録キャンペーンを複数実施

- ・京都、大阪の丸善ジュンク堂書店3店での森の京都ファンクラブ登録キャンペーンを実施



今後、
関係団体と連携した
ポイントラリー等の取組
も検討し、
協力事業者について
さらなる開拓を目指す。 5

マーケティング調査等による顧客拡大（マーケティングの展開による顧客の拡大）

森林サービス、健康づくり等受入れによる事業化検証

○ 森の京都 京都丹波ウェルネスツーリズム推進協議会の設立

→ 豊かな自然と明治国際医療大学の東洋医学の知見を活用した養生に着目、養生を活かしたツーリズムの推進を図るため、協議会を設立

設立総会：令和5年9月27日（水）



・森林ヨガ



・焚火体験



・天体観測

事業の継続に向けた体制づくりや、コンテンツ開発を含む事業の拡大について協議会で検討

○ 「TANTANアルベルゴ・ディフィーゾ」ウェルネスツーリズム

～「森のホテル」で過ごす新しい2泊3日の森林浴プログラム～（観光庁採択事業）

→ 南丹市、京丹波町全体を「森のホテル」と捉え、関係事業者等と連携した「森林浴プログラム」を展開



・森林散策



・金継ぎ体験



・川遊び

ファムトリップ
を実施

認知度向上に向けた取組強化（SNSマスメディア等を用いた戦略的な情報発信）

SNS広告の活用

- ツアーやセミナー等の募集について、**表示対象者を興味分野や地域で絞り込み**、FacebookやInstagramで広告発信

森の京都DMO 広告・啓

「森の京都」でもある「京都丹波（亀岡市・南丹市・京丹波町）」は京都府内最大のそばの産地！！
今年も新そばのシーズンがやってきた！
なんと今年は京都丹波のそば提供店の食べ比べができる『京都丹波新そばまつり』を初開催します！！
★森の京都ファンクラブ登録（登録費・年会費無料）で、まつりで使える「100～500円引きの割引券」を抽選でプレゼント（先着100人・ハズレ無し！）
この機会に京都丹波の新そばを味わおう！！

【1食800円・限定200食】北大路魯山人緑の鮎茶屋料理旅館「角屋」監修の珍ジビエメニュー『熊汁』が帰ってくる！！
昨冬、大好評につき開始1時間で100食が売り切れたため、今回はなんと倍の200食を用意！！
森の京都「京丹波町和知」道の駅「和」で皆様のお越しをお待ちしております。
#熊汁 #ジビエ #道の駅 #道の駅和 #京丹波 #京丹波町 #森の京都 #食の京都 #京都丹波

京都府綾部市の奥上林で農業や自然に触れあう「Fun Farmプロジェクト」始動！！
4月7日（日）の第1回目は「ポタジェガーデン」の作成と「インセクトハウス」の制作を実施！！
「ポタジェガーデン」とは！？
野菜・花・ハーブ等様々な植物を混植して作るフランス式の家庭菜園のこと。
当プロジェクトでは自然にやさしい形で栽培を行うほか、虫や小動物たちの拠り所となる虫たちのホテルも自分たちで作ります。
上林地区をはじめとした里山集落の課題である「獣害対策や景観維持」を参加者みなで作りませんか！？
是非お気軽にご参加ください！！

奥上林
FUN FARMプロジェクト
2024年度始動

12/29(金)
11:00～売切れ終了
道の駅 和なごみ 玄関前
やすんばキッチンカーにて

11/18(土)
11:00-15:00
道の駅 京丹波味夢の里 交流広場

pref.kyoto.jp
道の駅 味夢の里『京都丹波新そばまつり』初

instagram.com
【12/29開催決定】あの お買い合わせ

奥上林
fun 詳しくはこちら

親子でい出を

広告掲載後にツアーやセミナーの申し込みの反応が！

morinokyoto.jp 広告

森の京都

京都 お城ウィーク&ウォーク
with 加藤理文先生と
2024
親子でフィールドワーク

森の京都お城自由研究
加藤理文 先生と
一緒にお城で学ぼう！

みんな集まれ！

3月16日(土) 周山城址
3月17日(日) 中畑城跡 八木城跡

詳しくはこちら

昨年初めて亀岡で開催された『御城印サミット』がパワーアップ ... more

の詳しくはこちら

→ 全11回配信。広告表示人数は延べ120万人以上！

認知度向上に向けた取組強化（継続的な情報発信とイベントの展開）

○文化庁移転記念事業「きょう ハレの日、」への出展

「日本の美と心を」をテーマに日本文化の魅力を広く国内外に発信することを目的とした、京都府が実施するイベントに出展し、**広く森の京都エリアの魅力を知らせ、森の京都ファンの獲得を目指す**

開催日：令和5年9月8日（金）～9日（土） 場所：京都市岡崎公園

来場者数（2日間）：約9,500人



・森の京都木製ガチャ
を回す西脇知事



・森の京都木製ガチャ
を回す門川京都市長



・木製ガチャによるキャンペーン実施



・各市町の観光・イベント情報発信



・QRトレイン顔出しパネルは子供に人気

認知度向上に向けた取組強化（継続的な情報発信とイベントの展開）

○ツーリズムEXPOジャパン2023への出展

国内外の観光業界の関係者が一堂に集まる「ツーリズムEXPOジャパン2023大阪・関西」にもうひとつの京都ブースとして出展し、**旅行会社等との商談会**や**観光の魅力発信**、**森の京都ファンの獲得**を目指す。

開催日：令和5年10月26日（木）～29日（日） 場所：インテックス大阪

来場者数：約148,000人（4日間合計） 一般日の京都府ブース来場者：3,906人（2日間）

森の京都ファンクラブ登録者数：208人（2日間）



・商談会の様子



・市町からも参加いただき商談を実施



・合同開催のインバウンド商談会 VJTM（Visit Japan Travel Mart）にも出展し、17か国、26件の商談を実施。



・一般日は市町や観光協会からも参加いただき、森の京都エリアをPR



・一般日での森の京都ファン獲得キャンペーンの様子

認知度向上に向けた取組強化 (森の京都QRトレイン等による継続的な情報発信とイベントの展開)

○QRトレインツアーの実施

福知山鉄道館フクレルのオープンをきっかけとした、鉄道ファン対象の「森の京都QRトレイン貸切列車で行く福知山ツアー」を開催 **ツアー参加人数：115名（販売1週間で定員満席）**

開催日：令和5年10月9日（月・祝） → 歓迎のおもてなしや沿線市町のPRを実施

※ 普段は走行しない**大阪駅～京都駅、園部駅～福知山駅**を走行



・出発セレモニーの様子



・車内は平安女学院大学学生6名がアテンド（DMO包括協定）



・京都府名誉友好大使（留学生）12名も同乗し、研修を実施



・和知太鼓、人形浄瑠璃のおもてなし



・綾部踊りのおもてなし



・車内森の京都木製ガチャキャンペーン実施

認知度向上に向けた取組強化 (きょうと魅力再発見旅プロジェクトを活用した森の京都の発信)

○バス車内、営業所でのポスター掲出

交通利用者への情報発信として、森の京都エリア内バス車内や営業所でポスターを掲示

期間：令和5年12月1日（金）～28日（木）

バス事業者：京阪京都交通（株）、西日本ジェイアールバス（株）、京都交通（株）、あやバス



- ・ 3種類のポスターを作成し、掲出するエリアにより使い分け

○丸善ジュンク堂書店でのプロモーション

大阪、京都の丸善ジュンク堂書店3店舗で、フェア台プロモーションを実施。

期間：令和5年12月15日（金）～24日（日）

※大阪の書店利用者をターゲットに、森の京都エリアをPR



- ・ 大阪、京都の3店舗
同時にフェア台
プロモーションを実施



- ・ 特定分野の書籍
購入者はレジにて
「きょうと魅力再発見
旅プロジェクト」のロゴ
入りポケットティッシュを
配布

○このほか、ラジオ出演によるPRやノベルティの制作、新聞広告によるPRも実施

認知度向上に向けた取組強化 (森の京都QRトレイン等による継続的な情報発信とイベントの展開)

○GO!GO!KYOTO GO!GO!SANGA アウトドアスポーツフェスへの出展

サンガスタジアムで開催の公開トレーニングマッチ（練習試合）に合わせて「もうひとつの京都」の魅力を来場者に発信し、サッカー観戦のみならず、周辺エリアへの周遊観光の促進につながりを目指す。

（JR西日本主催イベント）

開催日：令和6年2月10日（土・祝） 場所：サンガスタジアム by KYOCERA 外周／北広場

トレーニングマッチ来場者数：約7,500人

→「もうひとつの京都」観光PRブースにて、森の京都ファンクラブ登録キャンペーンを実施（149人が登録）



・特急ラッピング列車「KYOTO SANGA TRAIN」が運行開始



・福知山駅で出発式を実施



・スタジアムイベント会場には多くの来場者が



・もうひとつの京都ブースにも長蛇の列

・スタジアム内には多くのサンガファンが入場



認知度向上に向けた取組強化 (森の京都QRトレイン等による継続的な情報発信とイベントの展開)

○「もうひとつの京都」ラッピングトレイン&バス特別展示への出展

「海」「森」「お茶」各エリアのラッピングトレインとラッピングバスが一堂に集まるイベントを開催し、「もうひとつの京都」の魅力発信と認知度向上を図り、各エリア公共交通を使って周遊してもらうきっかけづくりの機会となることを目指す。

開催日：令和6年2月23日（金）～25日（日） 場所：京都鉄道博物館

※森の京都の出展日は2月24日（土）

来場者数（3日間）：約12,000人 ※森の京都出展日は約4,600人



・2/22（木）は「海」「お茶」のトレイン入線式を実施

・観光PRブースでも森の京都ファンクラブキャンペーンを実施



・森の京都QRトレインでは車内放送体験を実施



・平安女学院大学の学生にも協力してもらい森の京都ファンクラブキャンペーンを実施



・スタンプラリーで木製ガチャ抽選会も

認知度向上に向けた取組強化（継続的な情報発信とイベントの展開）

○森林の魅力を感じin京都府立植物園への出展

森林の持つ大切な役割、森林や林業の実態を知ってもらう、国産材の使用、木育など森林を身近に感じてもらうためのイベントに出展。

開催日：令和6年3月2日（土）～3日（日） 場所：京都府立植物園

来園者：約8,000人（2日間）

→森の京都ファンクラブ登録キャンペーンとして、植物園内ポイントラリーを実施 登録者：224人



・広い敷地内で多くの木工体験等イベントを実施



・並木道にも事業者が出店



・出店事業者もワークショップを実施



・ポイントラリーに参加すると木製ガチャ抽選に参加



・その場でできる木工レーザー加工

地域開発推進事業（歴史・文化に触れる旅等のコンテンツ開発・着地型商品造成）

○文化観光サポーターの活動による地域活性化

- 「地域の多様で豊かな文化資産」に着目し、地域振興、観光振興等に活用するため、令和3年度から森の京都DMOに文化観光サポーターとして配置
- 令和5年度は新たに南丹市エリアにもサポーターを2名配置し、8名が活躍

令和5年度は森の京都エリアで新しいサポーターが年度途中にも加わり、文化観光サポーターは総勢8名。各々市町を担当する文化観光サポーターは、他のサポーターと情報共有しながら、豊かな森のエリアの無形文化を発信。

氏名	エリア	備考
(こんどう みき) 近藤 美紀	福知山市	3年目
(ぐじょう みほこ) 公庄 美保子	福知山市	R5.4.1～
(いしざき みち) 石崎 美地	綾部市	2年目
(もちざわ ななこ) 用澤 菜奈子	南丹市	R5.4.1～
(やぎ ゆきな) 八木 志菜	南丹市	R5.12.1～
(いでの みおこ) 出野 美生子	京丹波町	2年目
(いぬい みずほ) 乾 瑞穂	京丹波町	2年目
(すずき なお) 鈴木 奈保	京丹波町	R5.6.1～



○無形文化財の映像制作

- 無形文化財の保存のため、福知山市（多保市の笹ばやし、額田のダシ）、南丹市（大送神社の綱引き）の映像制作に係る各種調整に取り組む。



・多保市の笹ばやしの様子



・額田のダシの様子



・大送神社の綱引きの様子

地域開発推進事業（歴史・文化に触れる旅等のコンテンツ開発・着地型商品造成）

○モニターツアーの実施

- ・和知伝統芸能見学と京丹波・綾部モニターツアー

日程：令和5年11月5日（日） ※20名の募集に対し満席

→ 和知伝統芸能貸切特別公演や、黒谷和紙見学を含むツアーを実施

・黒谷和紙
見学の様子



・和知人形
浄瑠璃の様子



・和知太鼓
の様子



- ・京都府無形文化財 丹波漆金継ぎ & 足立音衛門里山ファクトリー！ 森の京都モニターツアー

日程：令和6年3月12日（火）、19日（火） ※各20名の募集に対し満席

→ 大阪発着の丹波の漆金継ぎ体験等の阪急交通社との共同企画ツアーを実施



・丹波の漆
金継ぎ体験



・足立音衛門里山
ファクトリー

○京のかがやき2024へ向けた取組

- ・福知山踊り、和知太鼓が出演、それぞれ練習会を実施

・京のかがやき2024日程：令和6年2月24日（土） 場所：京都南座



・練習会
の様子



・本番の
様子



地域開発推進事業（歴史・文化に触れる旅等のコンテンツ開発・着地型商品造成）

○京都丹波ウェルネス観光ツーリズム事業

「森・里山での癒し体験」をテーマに、京都丹波地域の観光コンテンツの取材、写真撮影、ウェブでの掲載
→ 「癒し」をテーマとした観光コンテンツについて、亀岡市、南丹市、京丹波町で2件ずつ計6件掲載



・「ウェルネス」のページに
「癒し」コンテンツの
ページを作成



・取材の様子



丹波地域の森や山に囲まれ、緑の空気が心地よく、誰もが自然の恵みを感じることができる。京都丹波の「癒し」のひととき。

また、古来より「丹波」は、山から山へ、川から川へと続く豊かな自然の恵みを感じ、現代においても、癒し・リフレッシュの場として、多くの人々に愛されています。

京都丹波の「癒し」のひととき。山から山へ、川から川へと続く豊かな自然の恵みを感じ、現代においても、癒し・リフレッシュの場として、多くの人々に愛されています。

・「癒し」コンテンツの
取材を行い、webで
紹介

癒し
Therapeutic
「森・里山での癒し体験」をテーマに、京都丹波地域の観光コンテンツの取材、写真撮影、ウェブでの掲載

お寺が静けさ、心洗われる静寂なひととき。
何もなかったが、価値ある時間に感じる
お寺の敷地内のキャンプと座禅体験。

丹波地域の森や山に囲まれ、緑の空気が心地よく、誰もが自然の恵みを感じることができる。京都丹波の「癒し」のひととき。

丹波地域の森や山に囲まれ、緑の空気が心地よく、誰もが自然の恵みを感じることができる。京都丹波の「癒し」のひととき。

・京都新聞に
記事掲載

丹波観光「癒やし」追加
DMOホームページに

丹波地域の森や山に囲まれ、緑の空気が心地よく、誰もが自然の恵みを感じることができる。京都丹波の「癒し」のひととき。

丹波地域の森や山に囲まれ、緑の空気が心地よく、誰もが自然の恵みを感じることができる。京都丹波の「癒し」のひととき。

南丹広域振興局と連携して「癒し」を含む
「ウェルネス」を京都丹波のキーワードに！

地域開発推進事業（新たな周遊コンテンツの開発）

○付加価値の高い体験プログラムの開発

新規コンテンツの開発、既存コンテンツの磨き上げ及び体験事業者の自立支援を行い、体験ツアーの充実を図る → **新規コンテンツを開発**



農家民宿体験



金継ぎ体験



亀京窯陶芸体験



おくどさん体験

地域開発推進事業（スポーツツーリズム等の推進）

○京都サンガF.C.ホームゲームに合わせた地域周遊事業

前年度好評を博した、**京都サンガF.C.ホームゲームチケット+スタジアム近隣店舗飲食券付きプラン**を今年度も販売。

対象試合：令和5年12月3日（日）※J1リーグ最終節 VS **横浜F・マリノス戦**

→ **100名の想定に対し、153名が申込み。**



11/9（木）13：30 予定数に達したため、現在取消待ちでの受付となります。
ご了承ください。

100名限定！

12/3（日）に **サンガvs横浜F・マリノス** 戦が開催されます！
観戦者の方にお得なツアーをご用意いたしました！

開催日
2023年 **12月3日（日）** 14:00キックオフ！

販売価格
*** 5,500円（税込）***



※下記の内容が旅行代金に含まれます。
・J1リーグ観戦チケット（バック5 前売定価：4,200円）
・飲食チケット3,000円分（12/2（土）～12/4（月）使用可）

point!

- ◆飲食チケット3,000円分（12/2（土）～12/4（月）使用可）付き！
- ◆23%オフの5,500円にて販売中！
- ◆アウェイチーム歓迎！ユニフォームを着ての観戦可能です！



・SNS広告により、関東方面のサッカーファンにも告知

・webによるお知らせも実施



・プランに参加してもらえるスタジアム近隣の飲食店も新規に開拓し、**18店舗**に協力していただき、昨年度より店舗数増加！

スタジアムを核に、**近隣飲食店と協力**して、周辺エリア全体を盛り上げていく。

地域開発推進事業（インバウンドの誘客促進と海外に向けた情報発信等）

○台湾大商談会

台湾の旅行各社へ森の京都エリアのPRをしつつ、高いピーター率を誇る台湾旅行会社の訪日に係るニーズを把握する

日程：令和6年2月21日（水）～22日（木） 場所：台中、台北



・日本側からは65団体が参加



・商談は2日間で約20件実施



・関西観光本部主催で参加



・通訳も森の京都エリアのPRに協力



・商談は2日間で約20件実施



<台湾旅行社の反応>

- ・きれいな景色や庭園について興味を持たれるが、**30分～1時間の体験を理想**とする。
- ・あまり知られていない場所へのツアー企画を求められるが、**交通アクセスの利便性も重視**。

地域開発推進事業（インバウンドの誘客促進と海外に向けた情報発信等）

○黒谷和紙の実体験など“ホンモノ”に触れるラグジュアリー層向け

インバウンド「暮らしビティ」（観光庁採択事業）

黒谷和紙の全工程の体験と、農家民宿での地元との触れ合い、和紙以外の伝統文化をトータルでラグジュアリー層に提供することで、インバウンド向けのコンテンツ及び販路の整備を行い、後継者・伝承者確保に向けた持続可能な取組を推進 **4泊5日 550,000円／人 募集中！**



・黒谷和紙の
全工程を体験

・農家民宿での
地元との交流



黒谷和紙を立体的な形状に活用した和紙の箱。
贈答用やインテリアとして活用してもらいたい。
エコ製品として和紙によるラップを開発。
サステイナブルな現代人の生活を実現する。
日本の風合いが感じられる3色の和紙箱。
和紙のパッケージも折り紙を連想させる。

・黒谷和紙の商品開発

○京都亀岡の里山での特別な日本文化体験

～プライベート楽焼作陶・薪能～（観光庁採択事業）

里山の中に拠点を構える楽焼の窯元で作陶を通じて茶道・禅文化に触れ、茶室での食事と庭に設えた能舞台で貸切の薪能を鑑賞するプログラムにより、日本文化の深みを学び・体感する。



・楽焼の窯元
での楽茶碗
作陶体験



1,100,000円／人

・昭楽窯の風情ある
景色の中で薪能を堪能

地域開発推進事業（歴史・文化に触れる旅等のコンテンツ開発・着地型商品造成）

○ガーデンツーリズム※

※地域の活性化と庭園文化の普及を図るため、各地域の複数の庭園の連携により、魅力的な体験や交流を創出する取組

登録が決定した**森の京都ガーデンツーリズム**を広く周知することで、森の京都エリアの知名度向上とエリアへの観光客の誘客を図る。

【ガーデンツーリズム登録証交付式への出席】

開催日：令和5年6月10日（土） 場所：トークネットホール仙台

※第40回全国都市緑化フェア 未来の杜せんだい2023での式典



・ガーデンツーリズム登録証交付式の様子



・国土交通省大臣官房審議官から授与



・森の京都ガーデンツーリズムの取組発表



2026年開催予定の
「**全国都市緑化フェア**」を
見据え、自然豊かな庭園を
活かしたツーリズムの展開等を
検討していく

地域開発推進事業（歴史・文化に触れる旅等のコンテンツ開発・着地型商品造成）

○もりやすバンバンビガロさん木下弱さんと行く京丹波バスツアー

京丹波町住みます芸人 **木下弱さん**を通して、京丹波町の魅力を発信。

日程：令和5年5月2日（火）

行程：京都駅発～京都府立丹波自然運動公園（散策）～丹波ワイン（昼食）～道の駅京丹波味夢の里（お買い物）～京都駅着

※昨年度から数え3回目の開催にも関わらず、**30名の募集に対し満席！**



・往路バス車内から参加者を盛り上げ



・マップを使い丹波自然運動公園を解説



・運動公園内丹波天文館での散策



・昼食で参加者をおもてなし



・丹波ワインでBBQをしつつ、交流を深める



・昼食後も参加者と交流を深める

地域開発推進事業（歴史・文化に触れる旅等のコンテンツ開発・着地型商品造成）

○「大阪お城フェスへの出展」～大阪でのお城イベントで森の京都の御城印をPR～

各地域の「お城」をフックにしたフェスへ初参加！それぞれの市町の城跡や観光PRを実施。

御城印も売切れになるなど、根強いお城ファンに森の京都の魅力を発信。

日 時：令和5年8月11日（金）～13日（日）

場 所：グランフロント大阪北館コングレコンベンションセンター

来場者：7,887名 御城印売上：531,000円（1,120枚）

※前年度：345,000円（729枚）



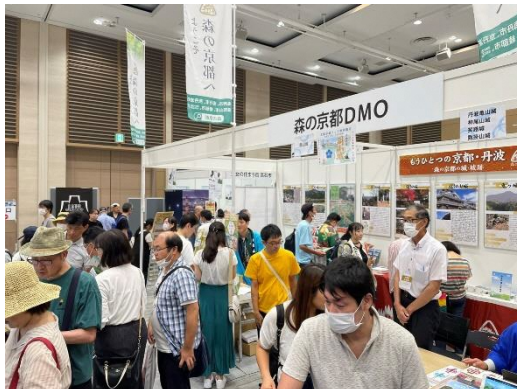
新たに数掛山城（亀岡）の御城印を制作販売



・開場前には長蛇の列が！



・森の京都ブースには多くのお城ファンが絶えず来訪



・5市町がそれぞれ工夫してブースを設営



中長期滞在者等受入体制・環境の整備推進（農山村教育体験旅行）

○欧米からのホームステイ

【ベルギーファミリーホームステイ】 令和6年1月4日（金）～5日（土）

ベルギーから5家族18名が南丹市日吉町に宿泊



・お正月ということもあり、
餅つきを体験



・2日間のホームステイを終え、
お別れの様子

○教育民泊及び日帰り体験（台湾、中国から5校、計215名が宿泊）

【辞修高級中学校（台湾）受入の様子】 令和6年2月18日（日）～19日（月）114名参加

※美山DMOとの共同事業、**亀岡市**、**南丹市**、**綾部市**で受入（美山地区は美山DMOにより受入）



・日本語でのあいさつ（亀岡市）



・受入家庭での様子（南丹市）



・受入家庭先で取材（綾部市）



・京都新聞に掲載

中長期滞在者等受入体制・環境の整備推進（農山村教育体験旅行）

○受入家庭、地域コーディネーター等の研修

【地域コーディネーター研修会、受入家庭説明会】 計4回開催



令和5年10月3日（火）
・地域コーディネーター、受け入れ家庭
募集の説明会（福知山市中六人部）



令和5年11月22日（水）
・地域コーディネーター研修会
（綾部市里山交流研修センター）



令和6年2月3日（土）
・教育民泊推進に関する研修会
（福知山市中六人部）

【教育民泊先進地視察】 令和6年3月7日（土）～8日（日）

場所：長野県安曇野市（市役所、農家民宿、国営アルプスあずみの公園）

→農家民宿プロデュースで協力体制をとる地元団体、自治体との連携やコロナ収束後の集客策等を視察



・市役所でのヒアリング



・視察／宿泊先の農家民宿
（しの389安曇野）



・農家民宿での調理体験

中長期滞在者等受入体制・環境の整備推進（関係人口、移住先先駆者情報の発信）

○京都丹波関係人口創出・移住促進事業 ※京都府南丹広域振興局と連携

京都丹波の「都会に近い田舎」の魅力を、発信という側面から活かして、関係人口の拡大から移住へ向けた受入の体制強化を図る。



・移住した人の暮らしのスタイル記事を発信（森の京都DMO webページで発信）

・「京の田舎ぐらしナビゲーター」との活動報告会

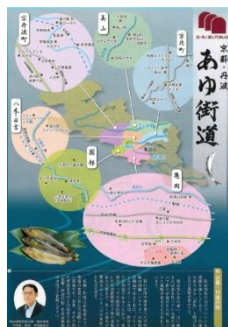


・地元住民や移住者に対する効果的な情報発信の習得を目指すSNS研修会を開催（亀岡市、南丹市、京丹波町で各1回（計25人が参加））

地域の食を活用した観光地域づくりの推進（食に関わるコンテンツの磨き上げ・商品化）

○あゆ街道事業のエリア拡大、新商品開発

- ・あゆ街道事業を、あゆ料理を提供している京都市右京区京北の事業者にも参加を打診
→より広いエリアでの体制を構築。
- ・あゆ街道事業参画事業者があゆを使った新商品として「あゆらーめん」を開発



- ・京都市右京区京北もあゆ街道事業に参画



- ・「あゆらーめん」を開発
京都新聞にも掲載され注目

○あゆ街道祭り

日 時：令和5年8月26日（土）午前11時～午後4時

場 所：川の駅・亀岡水辺公園

主 催：京・来て観て丹波の会（事務局：森の京都DMO）

来場者数：約400名

あゆのつかみ取りを中心としたイベントとして実施し、大きく盛り上がった。



- ・会場は多くの人でにぎわい



- ・子供も大人も川遊びに夢中



- ・獲ったあゆはその場で塩焼きにして堪能

地域の食を活用した観光地域づくりの推進（食に関わるコンテンツの磨き上げ・商品化）

○地方銀行フードセレクション

「食」に係る商談会への出展により、森の京都の「食」のブランドイメージの認知度向上を図る。

開催日：令和5年10月3日（火）～4日（水）

場 所：東京ビックサイト 総出展者数：874社 来場した食品バイヤー：6,782人

森の京都からは「株式会社談酒館（京丹波町、ジビエ製品）」「夜久野物産株式会社（福知山市、丹波黒大豆製品）」が出展

→ 商談件数2日間で2事業者合わせて69件（次につながる案件も複数あり）



・森の京都の「食」をPR



・多くの人が森の京都の「食」に興味津々



・京都銀行頭取も応援しに来場



・2社同時の商談のケースも



・市町のパンフレットを展開し、エリアPRも実施

地域の食を活用した観光地域づくりの推進（食に関わるコンテンツの磨き上げ・商品化）

○京都丹波そばの里魅力発信事業 ※京都府南丹広域振興局と連携

京都府内最大の「そば」の産地である京都丹波地域において、観光客や地域の住民に「そばの里」としてのイメージの浸透、地元産そばを使用した商品の新規開発等地域での加工・消費の拡大を目指すため開催。

・京都丹波そばの里フェア

期間：前半 令和5年10月6日（金）～10月29日（日）

参加店舗：計22件

後半 令和5年11月19日（日）～12月10日（日）

販売数量：約26,000食



・今年度初の試みとなる地元産「そば」をテーマとしたフェアチラシ

・森の京都ファンクラブを活用したデジタルポイントラリーも実施



・地元産そば粉を使ったそば

・そばだけでなく、そば粉を使ったスイーツなども



・京都丹波新そばまつり

開催日：令和5年11月18日（土） 場所：道の駅京丹波味夢の里

来場者：約2,000人 そば提供数：813杯 売上：約70万円

・秋の行楽シーズンでもあり、そばを求め多くの来場者、長蛇の列ができた



地域の食を活用した観光地域づくりの推進 (ジビエ・鮎等食・特産品のブランド化・販路開拓)

○第7回森の京都ジビエフェア ※京都府南丹・中丹広域振興局と共同開催

森の京都の魅力ある食材の1つであるジビエについて、ジビエフェアを開催することにより、ジビエ料理のメニューや精肉販売の定着を図り、各地域の特徴を生かした消費拡大を推進するとともに、ジビエに関わる関係者との連携を強化し、地域振興につなげる。

開催期間：令和5年11月18日（土）～令和6年2月18日（日）

※今年度も豚熱の影響があり、鹿肉に限定しながらも、**昨年度を上回る43店舗が参加**（R4:38店舗）

※**京都市右京区京北**の事業者も**6事業者が参加**



・第7回ジビエフェアチラシ



ラジオDJにより
ジビエフェア参加店舗を取材



・BISTRO 仙人掌はジビエミニコース
を展開



・BBQ&CAFÉ
Honohohは
鹿もも肉の
厚切りカツレツ
を展開



・京都新聞に記事掲載



・ジビエフェア参加店舗
のラジオ生出演
(談酒館)

地域の食を活用した観光地域づくりの推進 (ジビエ・鮎等食・特産品のブランド化・販路開拓)

○地域食連携によるガストロノミーツーリズム推進事業

※主催は京都府観光連盟

- ・京都市内**老舗料亭主人（京都料理芽生会）**による地域の農林水産品産地見学、伝統食体験の視察によるメニュー考案
- ・産地体験を含んだモニターツアーを実施

テーマ	京料理とジビエの出会い	伝統工芸×京料理
コラボ料理提供店	柳町（福知山市）	ゆう月（綾部市）
監修料亭	菊乃井	三友居

- ・京都ガストロノミーアワード2023を開催

日程 令和6年1月31日（火） 場所 ANAクラウンプラザホテル京都

→ コラボでの**開発メニュー**とメニューを組み込んだ**観光ルート**の**アワード**を開催。



・黒谷和紙体験とコラボ料理の試作



・鹿の精肉作業とコラボ料理の検討の様子



・黒谷和紙の季節の奉書焼きでグランプリ受賞



【グランプリ】
森の京都② 伝統工芸と京料理
ゆう月×茶懐石 三友居



・鹿肉味噌煮込みで特別賞受賞



【特別賞】
森の京都① 京料理とジビエの出会い
柳町×菊乃井

地域の食を活用した観光地域づくりの推進（食に関わるコンテンツの磨き上げ・商品化）

○森の京都プチマルシェ2024 ※京都府南丹広域振興局と共同開催

日程：令和6年3月7日（木）～8日（金） 場所：京都ポルタ中央通り

出店者数：6店舗（日替わりにより半数ごと）

購入者数：2日間で609人 売上：2日間で約60万円



・プチマルシェ2024チラシ



・多くの通行人の目に止まり、足を止める人も

・サインージ
による
イベントPR



・ラジオDJも来店しお買い上げと
木製ガチャ挑戦



・一定のお買い上げによる
木製ガチャ抽選会参加で誘客



・京都駅に
ポスター掲出
してもらいPR

アクセス強化、二次交通誘客事業（E-bike実証事業）

○三和地区サイクリングツアー造成及びモニターツアー

森の京都エリアにおけるインバウンドツアーを造成し販売する体制を整えるべく、インバウンドガイドとして活動する方々と連携し、**E-bikeを活用したツアー造成及び販売のためのモニターツアー**を実施

モニターツアー日程：令和5年5月11日（木）

→ モニターツアー後、トリフを作成し、旅行会社向けに販売を実施



・モニターツアー出発の様子



・龍源寺にて住職による百観音の説明



・高台からの景色を見ながらのランチ



・豊かな自然を背景にサイクリング



・コース途中注意が必要なダウンヒルもあり



・モニターツアーのフィードバックを実施

人材育成

○事業者提案型持続可能な地域づくり事業

森の京都エリア内の地域事業者などからの**提案に基づく地域課題解決のための実証事業を実施**し、地域課題の解決と当地の持続可能な地域づくりを促進する。

事業提案の募集に当たり、**2つの募集タイプ**を設定し、**6件を支援**

タイプ名	支援上限額	内 容	採択件数
地域振興タイプ	30万円	地域課題の解決のための交流事業や活動をはじめようとする方向け	2 件
事業（収益）創造タイプ	100万円	ビジネス手法で地域課題の解決に取り組もうとする方向け	4 件

【地域振興タイプ】



・胡麻の収穫体験の様子



・綾部カブ活イベントの様子

【事業（収益）創造タイプ】



・園部E-bikeは京都新聞に掲載



・デザイン新たにした亀岡地ビール



・亀岡旭メロンジャムの開発



・綾部ヘルスツーリズムの取組

人材育成

○森の京都観光関連ビジネス講座

森の京都エリアで観光関連での起業等を志向する方を対象に全4回の講座を実施 12名参加
→ (株) 美ら地球 (ちゅらぼし) の山田拓氏を講師に迎え、事業開発の基礎手法等を学ぶ

令和5年度
森の京都 観光関連ビジネス講座

主催：森の京都DMO

講師：山田 拓氏
株式会社美ら地球
代表取締役社長

第1回 11月28日(火)
第2回 11月29日(水)
第3回 12月12日(火)
第4回 1月11日(木)

森の京都DMOは、
観光関連ビジネスの創業や発展を応援します。

日本でも数ある外国人観光客向けにサインディングアー「Chotopia Experimental」を立ち上げた、
山田氏を講師に迎え、観光関連のビジネスで起業するための知識を学ぶ講座を実施します。

こんな人にオススメ！

- ・観光関連に興味を持ちたいけど、具体的な夢やビジョンがまだない人
- ・「アイデア」や「経験」が豊富にあるけど、どうすればいいかわからない人
- ・観光関連の事業で成功したいけど、具体的な知識がほしい人
- ・観光関連のビジネスで起業したいけど、具体的な知識がほしい人

費用

第1回 サンガスタジウム by KYOCERA 22,000円
第2回 サンガスタジウム by KYOCERA 22,000円
第3回 森の京都DMO 22,000円
第4回 森の京都DMO 22,000円

お申し込み先

森の京都DMO 森の京都観光振興局 森の京都DMO 事務局
〒600-8501 京都府京都市下京区西ノ京1-1-1 森の京都DMO 事務局
TEL 075-22-9800 FAX 075-22-9801

令和5年度 森の京都 観光関連ビジネス講座

【開催概要】
①森の京都エリアで観光に関連するビジネスで起業を目指す人または起業後数年の人
②全4回ずつの講座で構成される。1回参加は可能ですが、ただし、現役後援者は参加不可です。
③1回の参加費は22,000円(税込)です。参加費は前払制です。

【講座内容】
第1回 11月28日(火) 10:00~17:00
AM イントロダクション・講義
PM 講義・ワークショップ
※終了後に交流会を予定
第2回 11月29日(水) 10:00~17:00
AM 英語・フィードバック・講義
PM 講義・質疑
※実際に訪れた事業に関する講義あり
第3回 12月12日(火) 10:00~17:00
AM 英語レビュー・ディスカッション
PM 講義
※実際に訪れた事業に関する講義あり
第4回 1月11日(木) 10:00~17:00
AM 英語レビュー
PM 講義・質疑
※実際に訪れた事業に関する講義あり

【お申し込み】
2023年11月11日(土) 12:00~17:00
森の京都DMO 森の京都観光振興局 森の京都DMO 事務局
〒600-8501 京都府京都市下京区西ノ京1-1-1 森の京都DMO 事務局
TEL 075-22-9800 FAX 075-22-9801

・今年度は4回の講座に加え、現地視察研修を実施



・会場を変えての4回の講座はどれも真剣な取り組みがうかがえる



・昨年度受講者の事業について現地視察、意見交換

森の京都DMO

(一般社団法人 森の京都地域振興社)

役職員名簿

(2024年7月)



森の京都

役 員

2024.7.

氏名	フリガナ	役職	備考
井上 敬章	イノウエ ヒロアキ	社長	嵯峨野観光鉄道株式会社 相談役
武田 一寧	タケダ カズヤス	副社長	京都府副知事
芦田 敦嗣	アシダ アツシ	取締役	株式会社福知山アークホテル 代表取締役
奥村 昌信	オクムラ マサノブ	取締役	一般社団法人 亀岡市観光協会会長
川本 康博	カワモト ヤスヒロ	取締役	京都交通株式会社 取締役 福知山営業所長
阪本 和宏	サカモト カズヒロ	取締役	京阪京都交通株式会社 代表取締役社長
佐々木 真	ササキ マコト	取締役	JA京都にのくに 代表理事専務
滋野 浩毅	シゲノ ヒロキ	取締役	特定非営利活動法人 里山ねっと・あやべ 理事長
高御堂 厚	タカミドウ アツシ	取締役	一般社団法人 南丹市美山観光まちづくり協会 代表理事
田淵 功	タブチ イサオ	取締役	一般社団法人 森の京都地域振興社 総括部長兼企画部長
寺田 弘和	テラダ ヒロカズ	取締役	株式会社 八光館 店主
豊田 知八	トヨタ トモヤ	取締役	保津川遊船企業組合 代表理事
中尾 誠二	ナカオ セイジ	取締役	福知山公立大学 地域経営学部 教授
中川 泰國	ナカガワ ヒロクニ	取締役	JA京都 常務理事
仲久保 政司	ナカクボ マサシ	取締役	株式会社緑土 代表取締役
樋口 義昭	ヒグチ ヨシアキ	取締役	京丹波森林組合 代表理事組合長
前川 二郎	マエカワ ジロウ	取締役	福知山市副市長
山森 英二	ヤマモリ エイジ	取締役	京丹波町副町長
秦 英正	ハタ ヒデマサ	監査役	京都銀行 執行役員 公務・地域連携部長
四方 喜伸	シカタ ヨシノブ	監査役	京都信用金庫 理事 企業金融本部長兼京都南エリア本部長

2024年度 森の京都DMO組織体制

